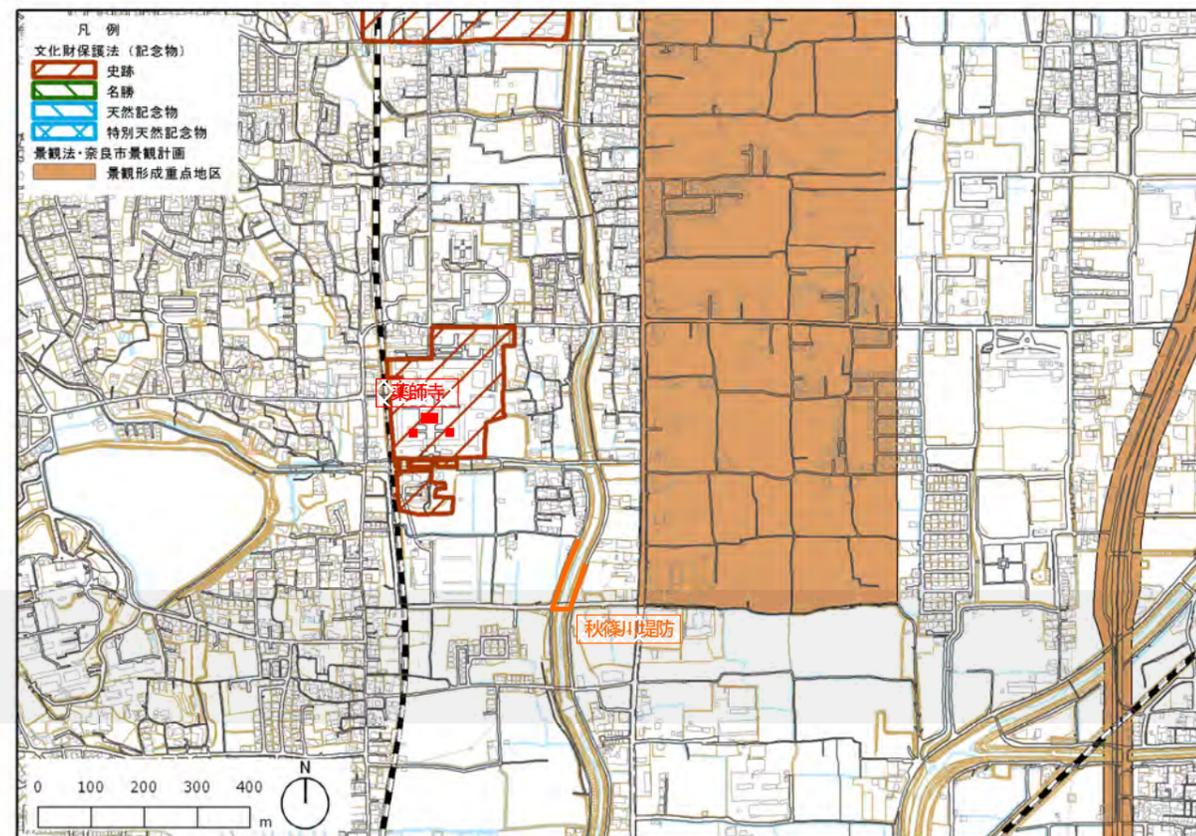
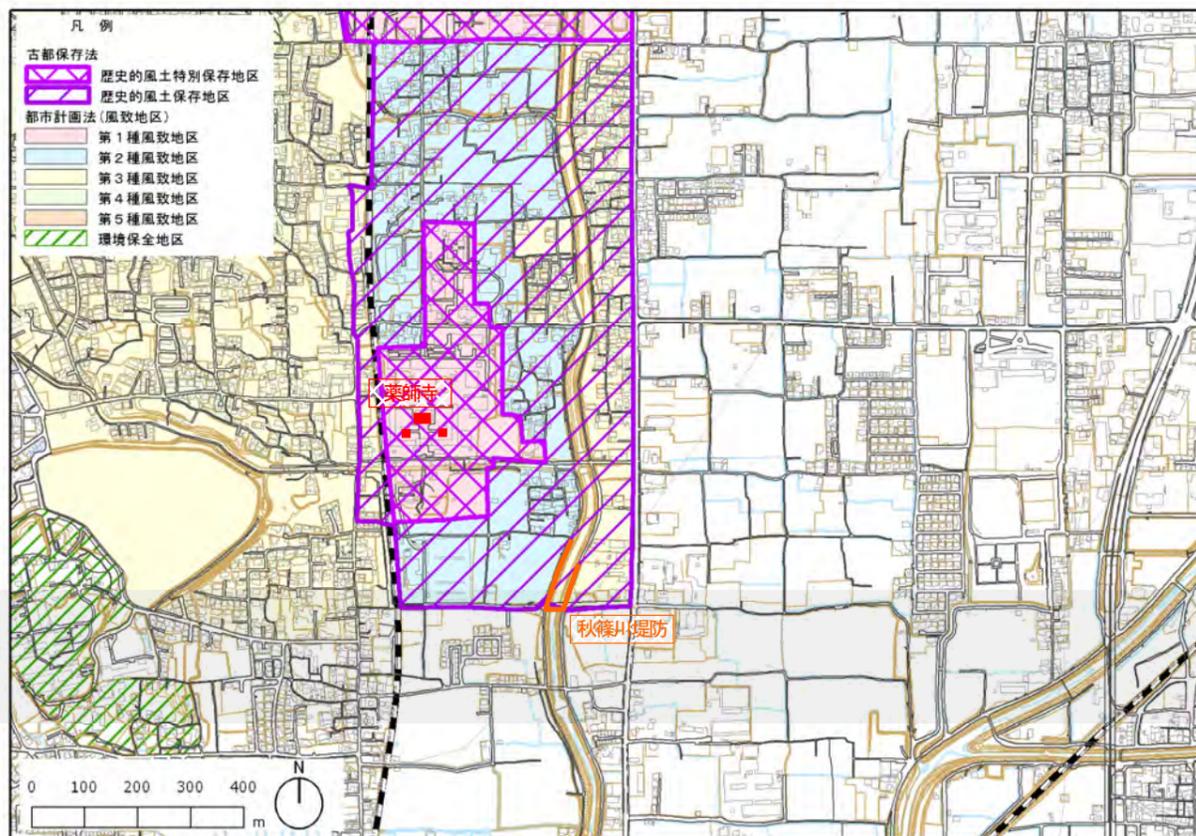
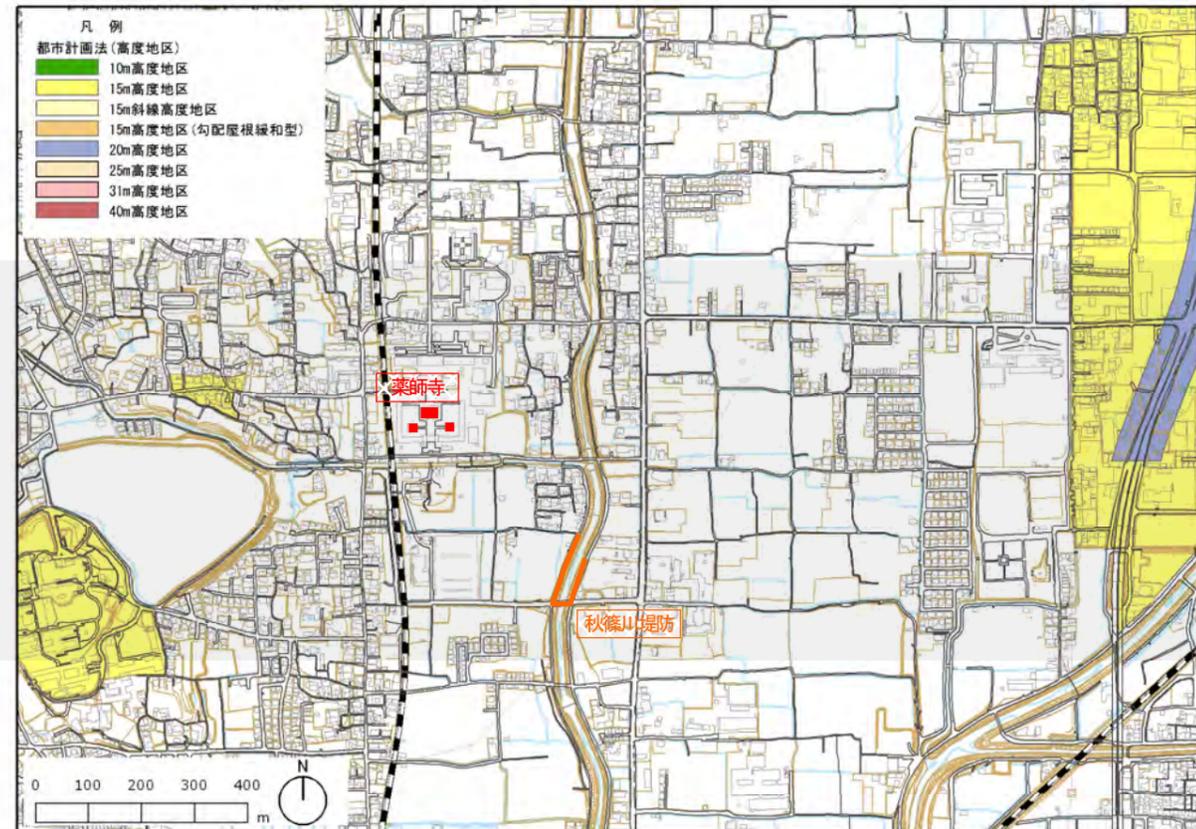
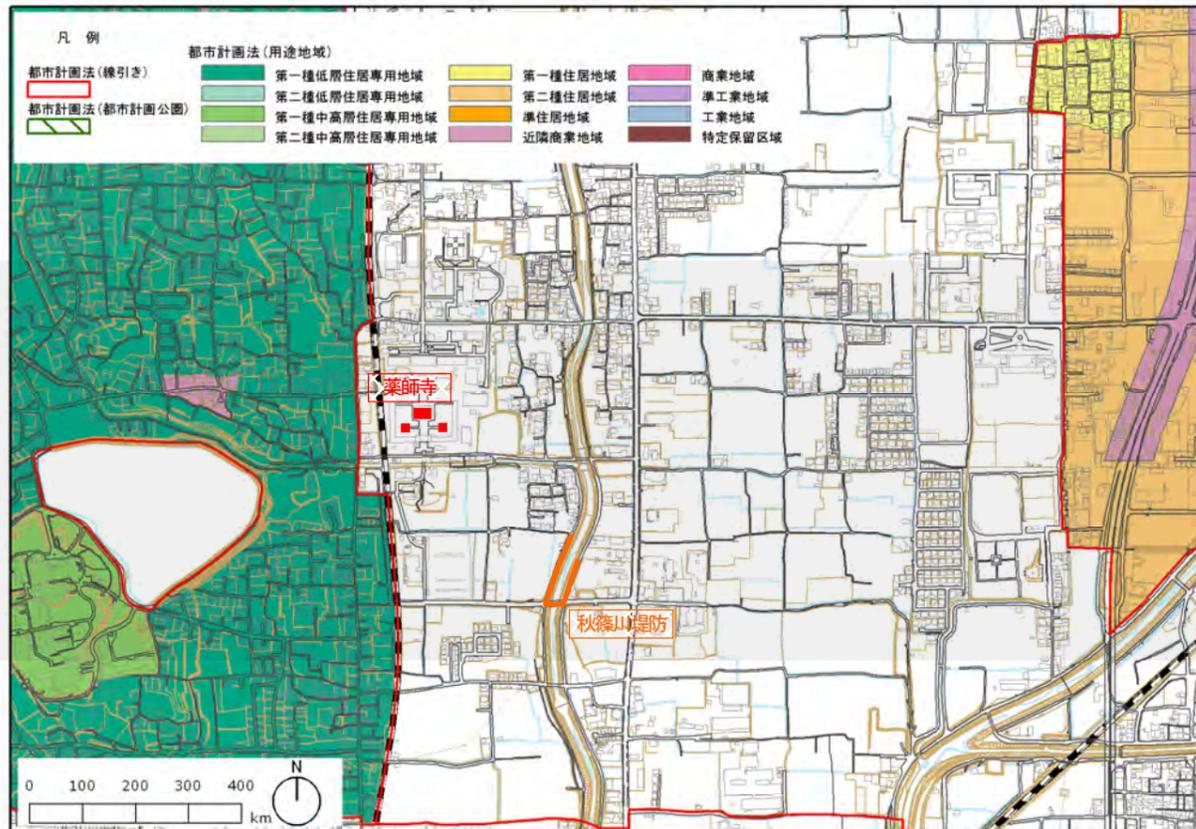


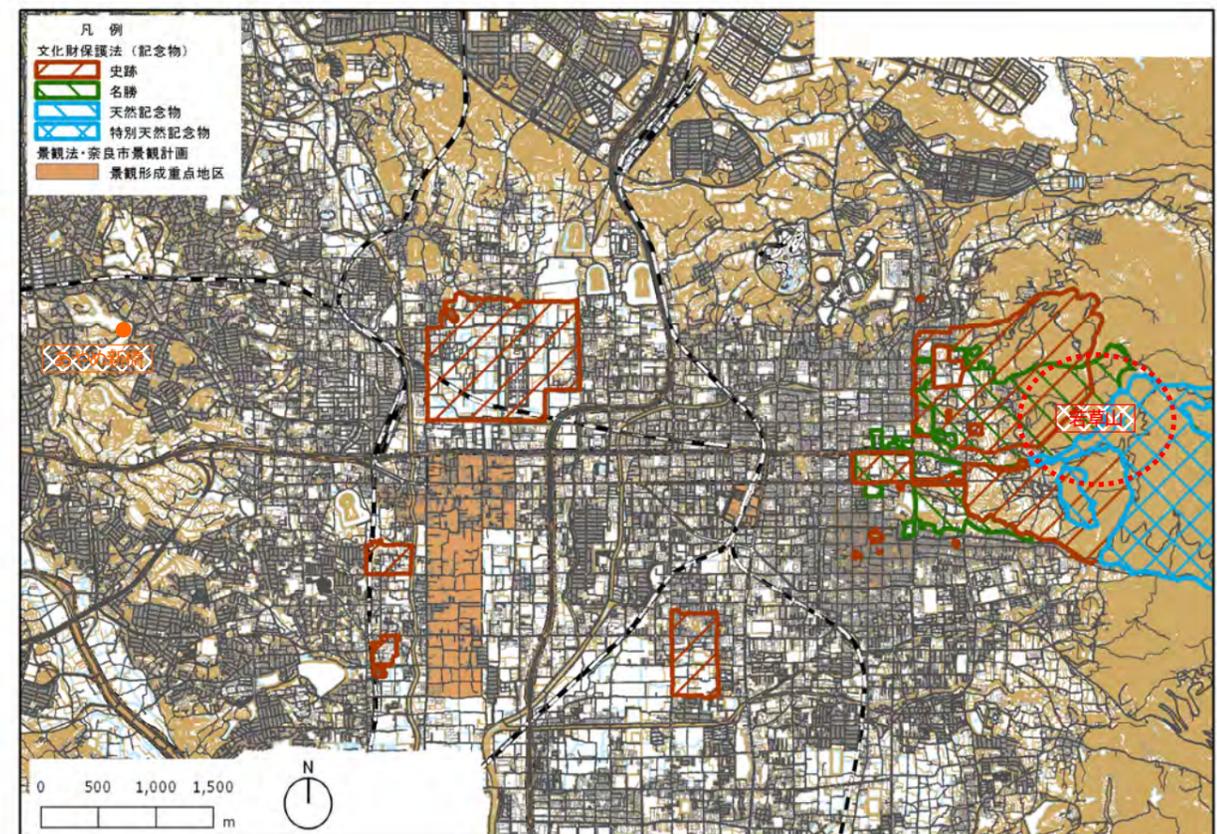
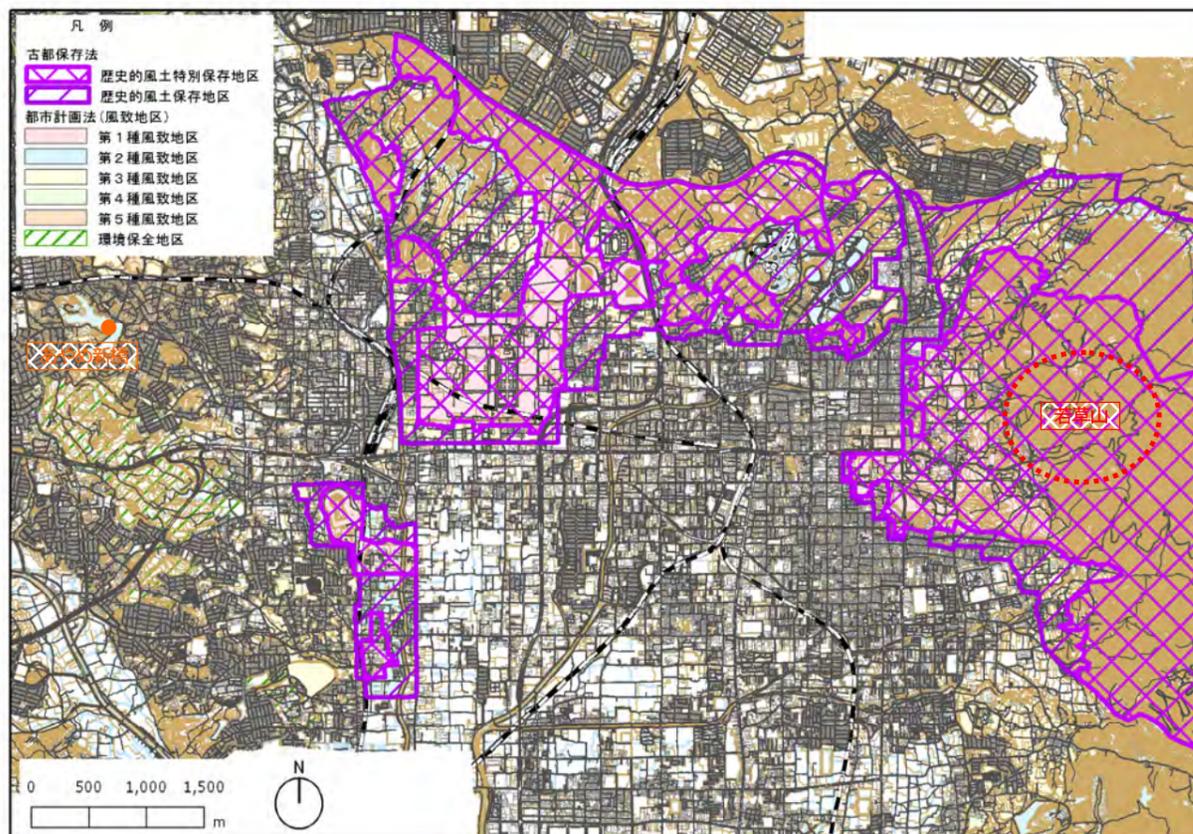
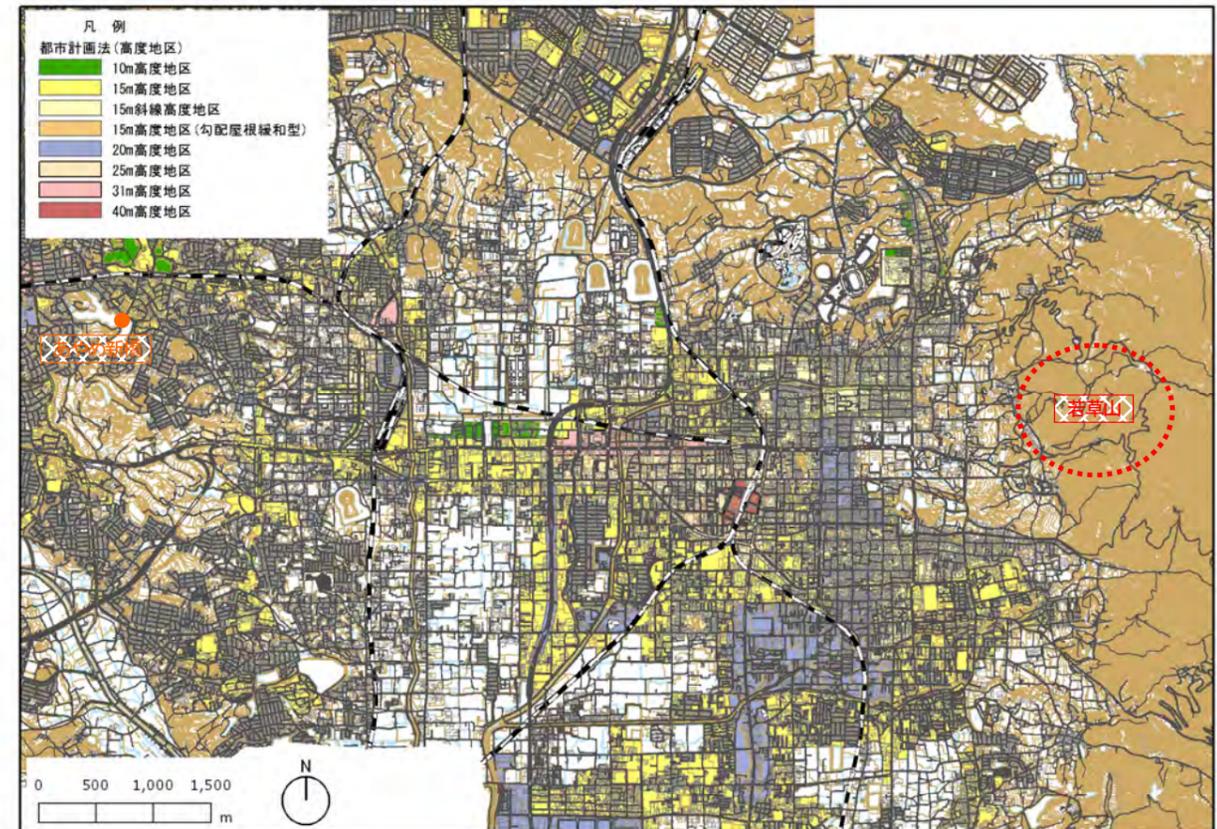
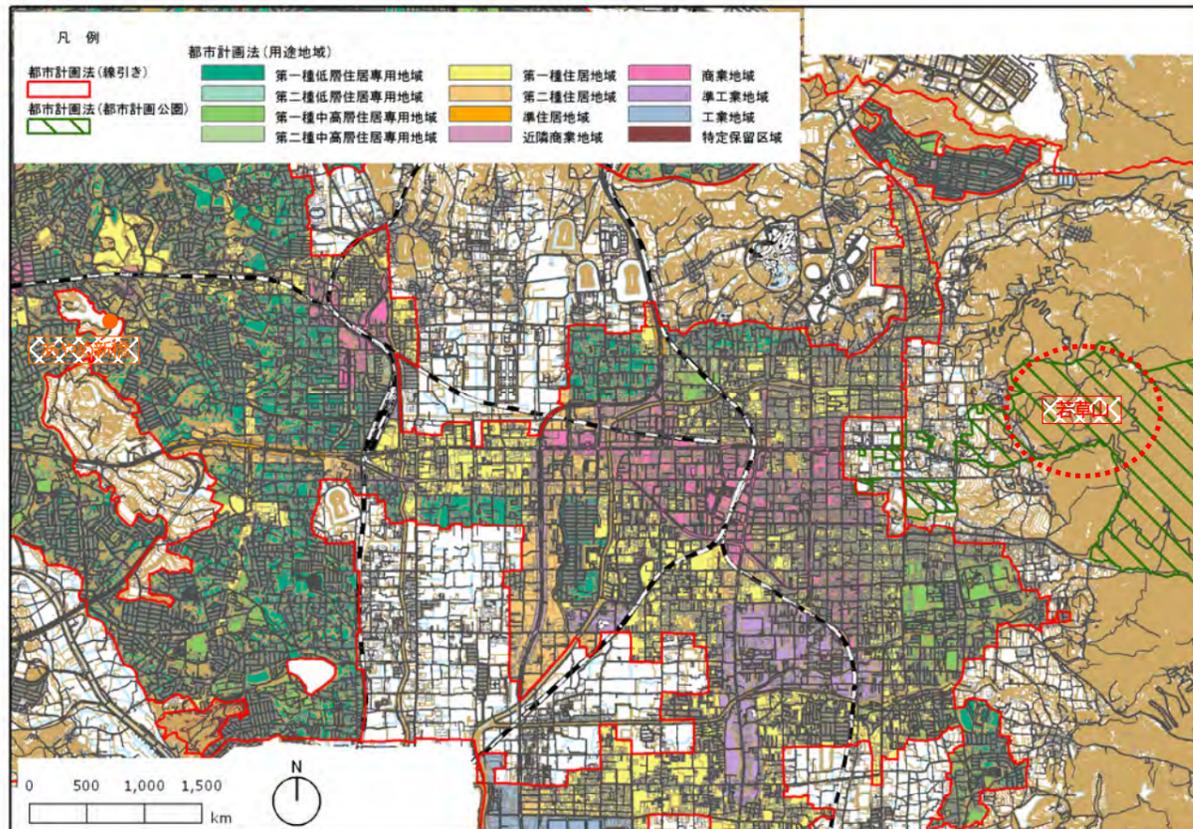
No. 31 秋篠川堤防から薬師寺への眺望		類	型	II : 広がり型眺望景観	
 		視 点 場	秋篠川堤防、城戸橋		
		視 対 象	薬師寺金堂、薬師寺三重塔		
目に見える景観の特性		眺望空間	近 景	農地、市街地（集落）、薬師寺金堂、薬師寺東塔、薬師寺西塔、薬師寺境内	
			中 景	市街地	
			遠 景	西部丘陵地	
目に見える景観の特性				<p>近景の農地と民家の葺、そして、その奥の薬師寺境内の樹林の広がり先の先に、薬師寺金堂、薬師寺三重塔が浮き立って見える。世界を代表する歴史的建造物である薬師寺の堂塔と周囲の集落や樹林とが調和した美しい景観である。</p>	
心で感じる景観の特性	歴史的背景			<p>秋篠川 本来、平城京右京の北方から東南流していたが、平城京の造営により、右京二坊の東よりを直線的に南下するように河川改修され、西の堀河の役目を果たしてきた。</p> <p>薬師寺 天武天皇9年(680)、皇后(後の持統天皇)の病氣平癒を祈願して藤原京に建立され、平城遷都に伴って現在地に移された。当時は壮大、華麗な大伽藍が並び建ったが、幾多の災害、兵火などでそのほとんどを失った。昭和42年(1967)以降、金堂、西塔、中門、回廊、講堂が順次復元された。東塔(国宝)は創建時唯一の遺構である。金堂の本尊、薬師三尊像(国宝)はわが国仏教芸術の最高傑作のひとつに数えられている。</p>	
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承			<p>薬師寺東塔 「竜宮の塔の写し」ともいわれており、以下のような伝説が残されている。</p> <p>「昔、薬師如来が天竺から渡ってきて、ある工匠に塔の建立を命じた。それから毎日塔の図を引いて苦心したがうまくいかない。ある夜、また薬師如来の夢のおつげがあり、竜宮城内の立派な塔を見ることができた。その形を写し取ることができ、ついに塔が完成したという。」</p> <p>薬師寺 明治時代に薬師寺を訪れたアーネスト・フェノロサが「凍れる音楽」と表現したといわれる。また、會津八一は薬師寺について以下の歌を詠んでいる。</p> <p>「すみえん の あまつ をとがめ ころもで の ひまに もすめる あきの そら かな」</p>	
	眺望景観の構成要素の関 係			薬師寺と周囲の集落 農地や民家等の周囲の環境と薬師寺三重塔が一体となった眺望景観である。	
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等			<p>薬師寺 「大和名所図会卷ノ三」(寛政3年(1791))、「大和国絵図」(文化年間(1804~1817))、「奈良名所独案内全」(明治12年(1879))、「袖珍大和路便覧一名芳山花葉」(明治25年(1892))で紹介されている。</p>	
	インベントリー			<p>薬師寺 世界遺産として多くの人々に知られており、南都七大寺のひとつでもある。また、奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、薬師寺はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p> <p>薬師寺のある奈良西の京 「人と自然が織りなす日本の風景百選」にあげられている。</p>	
		守るための視点		<p>薬師寺東塔は国宝、薬師寺旧境内は史跡に指定され、保護されており、また、歴史的風土特別保存地区として保存されているため、視対象については、新たな保全施策は求められない。</p> <p>前景の農地は、歴史的風土保存区域として歴史的風土に不調和な規模・形態・意匠等の建築物が建てられないよう保存されているが、伝統的様式の民家の建替え等により景観が大きく変容するおそれがある。また、前景の農地の広がり失われてしまうと、規模の大小に関わらず薬師寺三重塔が見えなくなる可能性が高い。前景に広がる農地の保全が求められる。</p> <p>(施策の方向性) A-1, A-3, B-1, D-1</p>	
		整えるための視点		<p>電線類が視界に映り込むため、電線類の美装化等が求められる。</p> <p>周囲の景観に馴染まない農小屋や倉庫がみられるため、修景が求められる。</p> <p>(施策の方向性) F-3, H-1</p>	
		活かすための視点		<p>城戸橋からの眺望は、奈良県「まほろば眺望スポット百選」に選定されている。奈良の景観宝地図にもあげられている。また、公募により推薦された眺望景観であり、十分に認知されているといえる。また、河川沿いは遊歩道としての整備はされているが、立ち止まって眺望を楽しむような視点場は設けられていない。No.28の大池からの眺望や薬師寺、唐招提寺等の歴史文化遺産との連携や、「奈良自転車道」や「水辺の遊歩道」等の既存の周遊ルートと連携した視点場の整備が求められる。</p> <p>(施策の方向性) K-1</p>	

法的位置付け



No. 32 あやめ新橋から若草山等の山並みへの眺望		類	型	II：広がり型眺望景観	
		視 点 場	あやめ新橋		
		視 対 象	若草山		
		眺 望 空 間	近 景	蛙股池	
			中 景	市街地、樹林	
遠 景	若草山等の山並み				
目に見える景観の特性		<p>近景には蛙股池の水面が広がり、遠方の山稜の連なりを望める広がりのある眺望景観をつくり出している。中景に見える樹林の間に通視線ができており、若草山の裾まで見え、象徴性が高められている。</p>			
心で感じる景観の特性	歴史的背景	<p>あやめ新橋 昭和13年(1938)に、大阪電気軌道により、蛙股池を周遊する幹線道路(幅員6~8m)とともに完成している。 若草山 山容が菅笠の形をし、3つの嶺が重なったようにみえることから、通俗的に「三笠山」とも呼ばれてきた。若草山の名は「伊勢物語」で在原業平が「むさし野はけふはな焼きそ若草のつまもこもれり我もこもれり」と歌ったことに由来するとも言われている。東大寺山堺四至図によると、元々は樹木の茂った山であったことがわかる。山頂には前方後円墳である史跡鶯塚古墳があり、鶯山とも呼ばれる。</p>			
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	<p>若草山 毎年1月に、「若草山の山焼き」が行なわれる。若草山の山焼きの起源には、若草山山頂にある鶯塚古墳の鎮魂のためという説や若草山を年内もしくは翌年の1月頃までに焼かなければ不祥事が起こると考えられていたためという説、東大寺と興福寺との領地争いがもとであるという説、春の芽生えをよくするための原始的な野焼きの遺風を伝えたものであるという説などの諸説がある。 春季になると一帯では谷間に鶯の鳴く声が聞こえたことから以下の歌が歌われている。 「今もなほ 妻やこもれる 春日野の 若草山に うぐひすの鳴く」(中務卿親王「夫木抄」) 「すたつとも みゑぬものから 鶯の 山のいろいろ ふみも見ろかな」(「宇津保物語」)</p>			
	眺望景観の構成要素の関係	<p>蛙股池 疋田、青野、菅原、横領といった盆地西部の集落に用水を供給し、人々の生活を支えてきた。 菖蒲池地区・あやめ新橋と奈良市街地 蛙股池周辺の菖蒲池地区は、奈良市街地の発展・成熟を支えた西部丘陵地開発のさきがけであり、蛙股池に架けられたあやめ新橋は、住宅地開発の大規模化の要でもあった。</p>			
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	<p>若草山 「大和名所図会巻ノ一」(寛政3年(1791))、「奈良名所東山一覽之図」(幕末頃)、「いんばんや絵図」(明治3~15年(1870~1882))、「奈良名所細見図」(明治24年(1891))など、近世以来多くの名所案内記で紹介されている。</p>			
	インベントリー	<p>若草山 若草山を含む奈良公園は、「日本の歴史公園100選」「日本の都市公園100選」に選定されている。また、若草山の山焼きは「人と自然が織りなす日本の風景百選」に選定されている。</p>			
		守るための視点	<p>若草山は、歴史的風土特別保存地区、第一種風致地区、名勝奈良公園、史跡東大寺旧境内等として保存が図られているため、視対象については、新たな保全施策は求められない。 蛙股池の東側一帯は第一種低層住居専用地域が広がるため、視線を遮るような大規模な建築物等が建築されるおそれはない。しかし、周囲の景観と調和しない形態意匠等の住宅や工作物が建築されるおそれがあるため、建築物等の形態意匠等についての規制・誘導が求められる。 蛙股池の水面の広がりへの保全が求められる。 (施策の方向性) A-3, B-2</p>		
		整えるための視点	<p>電線類が視界に映り込む。また、白いガードレールが帯のように連なり、浮き立って見える。また、周囲の景観と不調和な建築物や工作物もみられる。電線類の美装化やガードレールの修景に加え、可能な限り建築物・工作物を修景していくことが求められる。 (施策の方向性) F-3, H-1</p>		
		活かすための視点	<p>公募により推薦された眺望景観であり、多くの人に知られている。しかし、立ち止まって眺望を楽しむような場の整備は行われておらず、観光的な活用の視点到に乏しい。視点場の整備や情報発信などを含め、積極的に観光資源として活用していくことが求められる。 (施策の方向性) K-1</p>		

法的位置付け



No. 33 羅城門橋から朱雀門、大極殿への眺望		類	型	II : 広がり型眺望景観	
 		視 点 場	羅城門橋		
		視 対 象	朱雀門、大極殿		
		眺 望 空 間	近 景	佐保川、農地、樹林、(朱雀大路)	
			中 景	市街地、農地、樹林、(朱雀大路)	
遠 景	大極殿、朱雀門、北部山並み				
目に見える景観の特性		<p>佐保川や近景域の農地等の広がり先の先に、うっすらと朱雀門、大極殿を望むことができる。眺望空間には大規模な建築物等が多くみられ、それらに埋もれているため、よく探さなければ見つからない。</p>			
心で感じる景観の特性	歴史的背景	<p>羅城門 平城京の中央を南北に通る朱雀大路(道幅約75m)の南端にあり、都の玄関口となる正門である。昭和44~45年(1969~1970)にかけて発掘調査が行われた。また、昭和47年(1972)には、門の基壇の西端部が検出され、門の本体は佐保川の西側堤防の真下に位置することが判明した。門の規模は桁行5間(約25m)、梁間2間(約10m)で、平城宮の正門である朱雀門とほぼ同じ重層入母屋造り瓦葺の建物とされてきたが、最近では門の正面が7間(約35m)の京内最大の門であったという説も出されている。また、最近の発掘調査の結果、羅城門は海外からの使者を迎える正門であるため、当時の首都の威厳を示すため、門の近くは瓦葺の立派な築地塀にし、離れた場所は板塀にした可能性もあるとされている。</p> <p>朱雀門 平城宮には12の門が設けられており、朱雀門は最も重要な門であった。朱雀門は平成10年(1998)に復元され、大極殿から眺めると、朱雀門の向こうに羅城門へと伸びた朱雀大路を感じることができる。</p> <p>大極殿 天平12年(740)恭仁京に遷都し、難波京、紫香楽宮を経て、天平17年(745)に平城京に戻った際、別の場所に第二次大極殿が建てられた。現在、第一次大極殿が復元されている。</p>			
	民俗文化・生活文化 文学・芸術作品 説話・伝承	<p>羅城門 「続日本紀」によれば、門では雨乞いが行われ、また、唐や新羅の施設を歓迎するなど、宗教的な場、外交儀礼の場でもあったことがわかる。郡山城天守閣の石垣東北隅には、羅城門礎石を伝承する石が3個ある。</p> <p>羅城門~朱雀門・大極殿(朱雀大路) 羅城門から朱雀門・大極殿への直線は、かつての朱雀大路を想起できる。「万葉集」では、以下の歌が歌われている。都の大路には柳が街路樹として植えられていたことがわかる。</p> <p>「春の日に 萌れる柳を 取り持ちて 見れば都の 大路し思ほゆ」(万葉集19-4142、大伴家持)</p> <p>平城宮跡・平城京 万葉集にも多く詠まれている。</p> <p>「あをによし 奈良の都は 咲く花の にほふがごとく 今盛りなり」(万葉集3-328、小野老)</p> <p>「たち変り 古き都と なりぬれば 道の芝草長く 生ひにけり」(万葉集6-1048、田辺福麻呂歌集)</p>			
	眺望景観の構成要素の関係	<p>羅城門と朱雀門・大極殿 平城宮の南門である朱雀門は、「天子南面す」というように、大極殿から平城京を睥睨(へいげい)する最も重要な門である。羅城門橋からは、朱雀門・大極殿を一直線に眺めることができ、かつての朱雀大路を想起できるとともに、平城京の大きさを体感できる。</p> <p>朱雀門・大極殿と北部丘陵の山並み 北側の山並みに抱かれた地に建設された平城京の構造を思い浮かべることができる。</p>			
情報としての景観の特性	名所案内記 絵 図 等	<p>平城宮跡(大極殿・朱雀門) 明治12年(1879)の「奈良名所独案内全」で紹介されている。</p> <p>羅城門 「大和名所図会卷ノ三」(寛政3年(1791))で紹介されている。</p>			
	インベントリー	<p>平城宮跡(大極殿・朱雀門) 世界遺産として多くの人々に知られている。また、奈良は、「わたしの旅100選」や「日本遺産・百選」「新日本観光地百選」などに選定されており、平城宮跡はその多くで構成要素のひとつとしてあげられる。</p>			
		守るための視点	<p>朱雀門及び大極殿の位置する平城宮跡は、史跡として保護されており、視対象については、新たな保全施策は求められない。</p> <p>羅城門橋と朱雀門・大極殿の間に建築物等が建設されると、朱雀門及び大極殿が見えなくなってしまうおそれがある。土地利用の制限などにより、かつての朱雀大路が感じられる空間の保全が求められる。</p> <p>背景の北部丘陵の山並みと朱雀門・大極殿を一体として望むことも重要であり、山並みを阻害しない高さの建築物とすることが求められる。</p> <p>朱雀門及び大極殿は探さなければ分からない程度であるため、周囲の建築物等の色彩や形態意匠に配慮し、朱雀門及び大極殿が、周囲の山並み等の自然のなかに浮き立って見えるよう誘導していくことが求められる。</p> <p>(施策の方向性) A-1, A-2, A-3, B-1</p>		
		整えるための視点	<p>周囲の自然環境と調和しない規模、形態意匠、色彩の工場や商業施設、電線類等や鉄塔などが眺望景観のなかに映りこみ、眺望景観の質を低下させている。可能な限り修景していくことが求められる。</p> <p>(施策の方向性) F-1, F-2, F-3, H-1</p>		
		活かすための視点	<p>視点場付近には、駐車スペースや案内板は設置されているものの、十分に情報化されていないため、アクセスが困難である。より積極的な情報発信が求められる。</p> <p>奈良市内の観光資源の集積する区域から離れており、連携が困難である。大和郡山市(郡山城跡や稗田環濠集落など)との連携の検討が求められる。</p> <p>(施策の方向性) J-1, L-1</p>		

法的位置付け

